

短 信

会長短信

政 志 郎

航空部 OB・OG の皆様にはお変わり御座いませんか。

佐々木先輩が航空部50周年記念行事の一環として記念式典と翔友が発刊されました。その翔友が20号を数えました。諸先輩方翔友を読んで戴いておりますか？

原稿を書いてもらう諸先輩方も大変だと思えますが編集者をもっと大変です。20年の長きに亘り地道な活動であり、同志社スポーツユニオン各部誌としては例をみないものになりそうです。

翔友歴代編集長佐々木先輩、牧野先輩、窪田先輩に感謝・感謝。翔友は先輩方々の心を繋ぐ機関紙です。

最近の同志社大学もスポーツユニオンも変化しつつあります。大学は新たな学部創設、小学校から大学までの一貫教育で知育・徳育・体育の同志社イズムの徹底、少子化時代での有為な社会人の育成への新展開の活動が始まる。

同志社スポーツの強化のため「課外体育委員会」の答申案を受けて学生支援センター・スポーツ支援課長を新設し、スポーツユニオンの諸問題の解決と学業ならびに競技活動への支援、指導体制の確立、指導者との連絡調整等7項目の具体的な業務を促進することになり、各部共支援課と協調して現役学生が課外スポーツをより楽しく、強く、各人の主体性を発揮してくれることを望みたい。

スポーツユニオンは昨年50周年を迎えました。これを契機にしてスポーツユニオン関東支部の設立をされましたので、航空部関東支部長に昭和39年卒の齊藤良和さんをお願いしご了解戴きました。昨年11月に関東支部総会が開催され46の各部、240人の出席となりました。

大学、スポーツユニオンが発展する中で我が航

空部は低迷状態であります。部員数の増えないのが大きな問題点でもありますが、高学年生がしっかりしないと部員が育たないだけでなく、良き伝統的な慣習が失われてしまいそうです。

昨春秋航空部山口部長先生、森川監督、翔友会有志で航空部再生検討会を始めました。鳥人間グループの今後のあり方、グライダーグループ活性化のあり方、部員間・監督との情報交換、部長先生とのコミュニケーションのとり方等について喧嘩がくがくの議論がなされました。今後適宜時間を見計らって再度検討を重ねる必要があると思います。

この春、3年生の部員はしっかり者が多くおり、彼等は自分らの状況をしっかり見ており、また判断力・行動力もかね備えており頼もしい若者である。今年の新入部員獲得についても目標を決め、早めに準備態勢をとって万全策を採るとのこと。ここ2～3年のない自発的活動を考えてくれている。何れにしても自分等で目標を企て、自分達の力で行動する主体性が学生スポーツの良いところであり、社会に出た時に役立つ基礎を作るところでありたい。現役諸君がむしゃらに頑張れ、明日が見えてくる。

航空部も大学・ユニオンに負けず今までの航空部から脱皮して力のある航空部に変わって下さい。

現役の活動に期待したい。

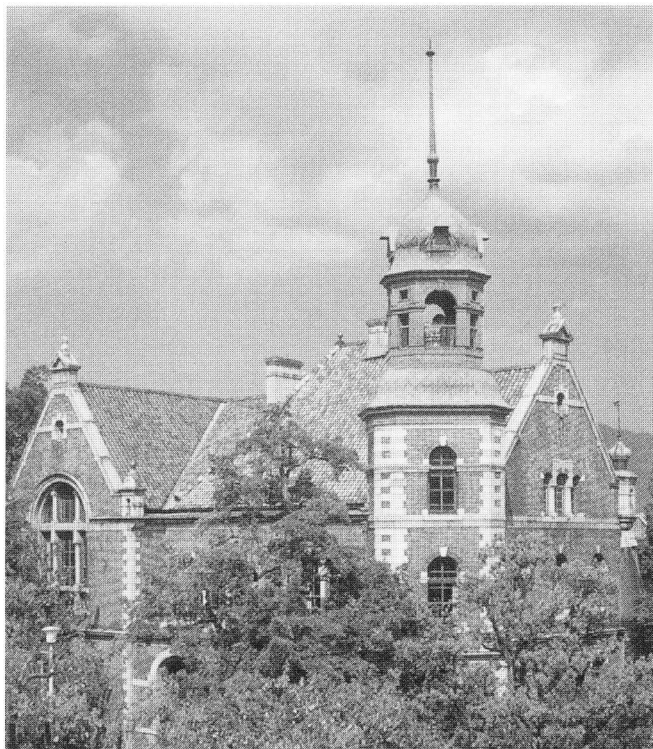
部長短信

山口博司

一年、一年が歴史の積み重ねであります。そう言う意味でも、今年も一年が過ぎ、また一年が新たに始まろうとしています。いつもこのころ、昨年はどうであったかということを考えます。特に昨年は、新入部員の数もかなり増え、部員の中からも空への挑戦に新たな芽吹きが出てきたことは、ご承知のことではあります。しかし何よりも強く感じることは、クラブに清々しさが出てきたような気がすることです。これは、こと航空部に限らず、どのような競技スポーツのクラブにも感じられることではあります。優れたチームというもの、何かよい雰囲気、清々しい風が通っているような気がするものです。もともと、同志社それ自体

このような雰囲気の学校ではありますが、航空部にもこのような雰囲気が感じられるようになってきたことは、大変うれしいものであります。逆に、この清々しさは航空部がもともと持っていたものかもしれません。

今年からのXプロジェクトである鳥人間参加も果たし、新人戦でも好成績であったことは、大変うれしいことです。ただこれらのことは、始まりに過ぎません。さらに高いところに、エネルギーを持ち上げる部員各々の更なる健闘を期待いたします。また、何よりも、今年も諸兄の暖かいご支援を賜りますようお願い申し上げます。



監督短信

森 川 泰

昨年度もなんとか無事に航空部の活動を行うことが出来ました。我々が目標とする同志社航空部の姿からはまだほど遠いものの、ここ数年のクラブ状況に比べいくつかが明るい材料がありました。一つは2年生の中村兵馬君が全日本学生グライダー新人競技会で個人3位という成績を取ってくれたことです。全国レベルの大会での入賞は久しぶりのことで大変喜ばしいことであり、部員の今後の励みにもなると思います。もう一つは宮地先輩と玉井先輩が教官として復帰され、学生の指導に大いに貢献して頂いたことです。学生に直接指導をしてもらえる教官が増えたことは今後の学生の活動を支援する上で大変大きな力となることでしょう。また、多くの新人を迎えることも出来ました。

しかし、明るい材料はあったものの昨年度も大変苦しい活動状況であったことは否めません。上級生が少なく、これまでクラブ活動が低迷していたこともあり、クラブ活動の全てに於いて一からやり直しと言う状況でした。1、2年生を中心とする部員の結束は堅いものがありました。クラブ運営に関するノウハウは失われており、OBの皆さんから見て頼りなく感じられることも多かったと思います。この責任の一端は監督である私の指導不足があったと反省しております。我々の活動の中心である合宿に於いても、上級生が少なく経験の浅い2年生が中心となったことなどから、合宿運営がスムーズに行きませんでした。なんとか運営出来たのも宮地教官のご指導や他校の協力のおかげと言わざるを得ません。学生諸君には昨年度の反省を今年度に生かしてもらいたいと思います。また、開催時期の設定の悪さから長年続いできた同立戦を昨年度は中止することになりました。

た。楽しみにされていたOBの皆様にはこの場をお借りしてお詫び申し上げます。

同志社航空部は創部から70年を迎えようとしています。この長い歴史の中で様々な活動を行って来ましたが、戦後からはグライダーに活動を絞って今日に至っています。航空部の活動では、皆スタートラインは同じで、平等にチャンスがあるという特色がありますが、見方を変えれば4年間という限られた時間の中でグライダーを乗りこなし、競技会で戦わなければならないという非常に個人の努力を必要とするクラブでもあります。学生諸君は学業もこなさなければなりませんし、学生時代にやっておきたいことも多々あると思いますが、航空部の活動にもっと力を注いでも良いのではないのでしょうか。それだけの価値を見だして入部して来た、或いはクラブ活動をする中でグライダーの楽しさを感じているはずで。航空部の活動を通して得られた経験や思い出は将来必ず大きな財産となります。もっとグライダーに熱中し、もっと航空部の活動を盛り上げてくれることを、山口部長先生を初め教官やOBは望んでいますし、その努力に報いるだけの協力を惜しまないでしょう。

この文章が皆さんの目に触れる頃には多くの新1年生を迎えて、1年生から3年生まで人数がそろい、クラブのポテンシャルとしては高いものになっていることでしょう。後は行動あるのみと考えています。学生には各個人が自覚を持ってクラブの為に、そして何よりも自分の為に頑張ってもらいたいと思っています。私も学生に負けないくらい監督として航空部の活動に力を入れて行きたいと思っていますので、OBの皆様にはご理解ご協力を宜しくお願い致します。